
『不幸は突然に・・・』

七瀬 郁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『不幸は突然に……』

【Nコード】

N0388A

【作者名】

七瀬 郁

【あらすじ】

突然、コナンが車に轢かれて死んでしまった。コナンが新一である事は……優作、有希子、服部、博士、灰原ですら知らないはず……。しかし、突然コナンが死んだ後、蘭がコナンが新一である事を知ってしまった！！一体……どーなるんでしょうか？悲しいラプストリーです。『不幸は突然に……』です、どうぞお読み下さい！！

コナンは哀と元太と光彦と歩美で公園でサッカーをしていた。いつもの様に、コナンがシュートを決めます。小さい頃からしていたので、さすがに上手です。その時、五時だったので、みんなは別れ家へと帰ります。

「コナン君、哀ちゃん！！また、遊ぼう！！学校でまた会おうね！！！！」

歩美は、コナンと哀に手を振り、帰りました。コナンは博士の家へと向かいます。新しいメカができたので、はりきって行きます。今度は、どんなメカなのだろうか？楽しみでスキップをしたくなる様な気分です。横断歩道を渡り、安全に帰ります。とおがコナンと哀がいるのは

右です。車がコナン達の所へやってきます。でも、二人も・・・運転手もコナン達に気付いてません・・・。運転手は気付きました。クラクションを鳴らすと、コナン達は気付きました・・・。でも、もう少しで哀が轢かれそうです。そして、コナンは哀の所へ行き、叫びました。

「灰原！！！！危ない！！！！」

コナンは、哀お助けました。車が通り過ぎると、コナンの姿は見えませんでした・・・。

でも、道が血だらけでした・・・、辺りを見るとコナンが血だらけで倒れていました。哀はすぐコナンの所へ急ぎました。

「工藤君！？しっかりして！！工藤君！！！！」

でも、コナンはもう、息を轢きとって死んでいました・・・。哀はコナンの服のポケットから、携帯電話を出し、博士に電話をしました・・・。

「博士？私よ・・・今、工藤君が車に轢かれそうだった私を代

わりに車に轢かれて・・・
死んじゃったの・・・全部、全部、私のせいなの・・・助けて、どうした良いの？博士なら、どうする？」

『し、新一君が・・・死んだ・・・？い、今ソコに行く！！！！どこなんじゃ？！』

「米花公園よ・・・」

博士はすぐさま、やって来た・・・。とても、悲しそうな顔を
して・・・。

そして一週間後・・・。

「コナン君、コナン君！！！！私を置いてかないで！！！！コナン君
がいないとまた、一人ぼっちになるじゃない！！！！」

「蘭・・・、もうコナンは・・・、うっ、うわぁーコナン！

！！！！何で、お前は・・・

何もしてやれなくてごめんな・・・。」

蘭と小五郎はたくさん泣いていた・・・。葬式の花をコナンに渡
し・・・。この世に、もう・・・江戸川コナンはもう居ない・・・。
そして来ていたみんなで言った・・・。

蘭、服部、和葉、小五郎、博士、哀、文代（有希子）、裕二（優作）
、歩美、元太、光彦、学校の
先生、快斗、青子、中森刑事（？）、目暮警部、佐藤刑事、高木刑
事、白鳥警部補、中村刑事、
横溝刑事（兄&弟）新出先生・・・みんなで

「さよなら・・・。」

そして、コナンを燃やした……。

そして、一カ月後……。

蘭が博士の家にやって来た……。
蘭は急に言い出した……。

「コナン君が死んでから一度も新一から電話かかってこないんだ……。メールも来ないし……でね、博士……私、分かっちゃったんだ……、コナン君が新一である事を……。博士……教えて……知っている事全てを……」

「わかった……、新一君は蘭君と二人でトロピカルランドへ行ったじゃろ？でも、新一君は怪しい黒ずくめの男の怪しい取り引きを見るのにしか頭になかった。取り引きに夢中になっていた新一君はもう一人の仲間に気付かず、頭を棒のような物で殴られ、毒薬を飲まされて、

体縮んでいた……。後は……京都の時は（迷宮のクロスロード）風邪薬を飲ませ、戻った……、それと、文化祭の時はピカルを参考にした試作品を飲み、哀君が新一君になり、

新一君は元の姿のままだった……。と、言う事……。それと、服部君が、蘭君の家に

来て新一君が出てきたのは、あのお酒を飲んだだけ……。で戻った……。それだけしか、ワシは知らん……」

「新一……」

蘭は言った……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0388a/>

『不幸は突然に・・・』

2010年10月15日21時31分発行